

さくら第537号

令和 6年9月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7:Tel51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

毎日の心算
えんがなりのなかで
あんだなま
あつと

『体験を重ねる』

7月28日の日曜日、兵庫県立文化体育館で「そろばんグランプリジャパン2024」が開催され、全国から323選手が終結し、ジュニア部門、スクール部門、シニア部門の各日本一が決まりました。

さかのぼること5月15日に福井県代表選手を決める予選会が福井商工会議所で開催され、3部門の選手が決まり当日に向けての練習が各塾で積み重ねられました。

ジュニア部門の小学生では初めて出場する人が大半なので不安があるなか、7月27日土曜日の朝8時に大型バスで春江を発ち、福井、鯖江、武生そして敦賀の各ICで選手と保護者を乗せたバスは引率者を含め総勢33名で会場の神戸市に向かいます。

途中のサービスエリアで各自が昼食をすませ、午後2時40分に会場着。3時に開場されると直ちに着席し練習開始です。3部門とも種目はかけ算とわり算は20題3分、みとり算は10題3分、かけ暗算とわり暗算は20題1分、みとり暗算は10題1分20秒が制限時間。ジュニア部門は3級、スクールとシニア部門は1級の問題です。

小学生11名、中学生6名、高校生4名の選手は6種目を順次、休むことなく計算していきます。引率の先生方7名が採点するなか2回の練習が終了。会場正面の舞台上では日曜日本番に向けての進行がなされています。読み上げ算と読み上げ暗算のリハーサルが行われ、全国から審査を通過した4名の読み手が超高速で読み上げます。

同行の保護者は、数字を聞き取るだけでも困難な速さで読まれるのをよく計算できるものだ。日頃の訓練のなせる技だと微動だにせず聴き入っています。

1回分が約15分で6種目を終えて休む間もなく2回終了で練習を終えて終了。待たせてあるバスに乗車し10分で宿泊するホテル着。

直ぐに1階レストランのテーブル席にて再度の練習会です。ホテルは福井での予選会で出場選手数が決まると直ぐに予約。

そして6月初旬の日曜日に出向き周囲の環境、交通状況、コンビニの有無などを調べたあと夕食を摂る店を探すと、ホテルから徒歩4分ほどに最適な店を見つけ店内に入り事情を話します。

33名が一度に入店すると混雑し時間を要するので、予約日の1週間ほど前に33名のメニューを列記しメールすることにしました。そこで引率者にカラーメニュー表を9枚にまとめて送付し各選手に決めてもらうことにしたのです。これだと待ち時間が少なく時間の節約と安心感が得られ、大会参加の楽しみが増します。

ふだんの各塾での練習、県の予選会とは全く違う雰囲気の中かで体験した事実が各選手の珠算学習への大きな動機付けになり、多方面への学習意欲の向上につながります。

Ju=ジュニア Sc=スクール Se=シニア

	Ju	Sc	Se	計
選手数	142	111	70	323
満点者	15	3	11	29
595点	9	4	5	18
予選通	11%	6%	16%	10%
かけ算	89点	59点	78点	75点
わり算	90	65	82	79
見取算	81	72	87	80
乗暗算	68	79	93	80
除暗算	70	87	97	85
見取暗	61	68	88	72
平均	77	72	88	79

Scは595点以上が予選通過者

ひやく
百生や
つる
蔓ひとすじの
こころ
心より
きこ
季語
ひやく
百生(ヒョウタン)
かがの
加賀千代女
1本の蔓から多くのヒョウタンの実がつくように、すべては心の持ち方だ